

車椅子の父と29年間旅行

第1回

年齢を理由に家族旅行を諦めない

僕は32年前、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えた父の下に生まれました。父の歩く姿も自分で食事をする姿も僕は見たことがあります。

メディアを通じてご存知の方も多いと思いますが、僕の父は首から下の運動機能を全廃した車椅子の名物社長「春山満」です。父は自らの体験から介護・医療関係の会社を創業しました。僕の幼少期から多忙を極めていた父でしたが、必ず守ってくれた約束があります。それは、僕たちの春、夏、冬休みに行く家族旅行でした。

当時はこの家族旅行を何ら不思議と感じませんでした。しかし、よく考えてみると車椅子の父と介護をする母、そしてやっぱり息子2人との家族旅行。誰よりも大変だったのは言うまでもなく母です。息子2人の世

話をするだけでも大変なのに、そこに超重度の父がいるわけです。これだけ大変な家族旅行にも関わらず続けられたのは、父中心の生活を日々送る母の強い想いからだったようです。普段は子供たちの相手ができずにいるけれど、旅行中は思いっきり楽しみなさいと。だから僕たちは、夏は沖縄の海へ、冬は岩手の安比高原へ行くことが定番でした。海では浮き輪を使って父を浮かせ、沖で一緒に楽しみ、

いくつになっても
Let's Trabel

スキー場では車椅子ごとゴンドラに乗り込み雪山の山頂まで一緒に行ったりと、難病の家族がいるとは思えない家族旅行を結果的にやり続けてこられました。

超重度の父と29年間旅行を続けることができたからこそ、僕は伝えたいことがあります。体は年齢と共に老いますが、心まで老いる必要はありません。ときには諦めなければいけないこともあります。しかし、それは本当に諦めないといけないことなのでしょうか？固定概念や常識にとらわれていないでしょうか？

このコラムでは、僕が家族の立場で経験してきた家族旅行、また僕がプロデュースしている家族旅行をご紹介します。諦めていた家族旅行から一歩踏み出すヒントをみつけていただきたいと思います。



ハンディネットワーク
インターナショナル（HNI）
代表取締役 春山哲朗

進行性筋ジストロフィーにより首から下の運動機能を全廃してなおビジネスマンとして第一線で活躍した春山満を父に持つ。ハワイ留学後、ネバダ州立大学ラスベガス校ホテルマネジメント学科へ編入。2007年HNI入社。取締役を経て、2014年父の急逝にもない、代表取締役就任。同年、新事業「グッドタイム トラベル」開始。要介護になってもあきらめずに家族旅行を続けていただきたい思いを実現。



▲父との旅行は家族の大切な思い出